

第 32 回精華町環境推進委員会 会議録

会議名		第 32 回精華町環境推進委員会		
開催日時		令和 5 年(2023 年) 12 月 6 日(水)10:00～		
開催場所		精華町役場 図書館集会室		
出席者	委員	上甫木委員長、畑中委員(けいはんな環境・エネルギー研究会)、寺本副委員長(精華町商工会)、岩本泰一委員(けいはんな学研都市精華地区まちづくり協議会)、信田委員(精華町環境ネットワーク会議)、井澤委員(精華町女性の会)、岩本登志男委員(公募)、樋口委員(公募)、渡辺委員(公募) (敬称略・順不同)		
	事務局	健康福祉環境部：岩前部長 健康福祉環境部環境推進課：山崎課長、八木係長、佐藤係員(敬称略)		
		(株)地域計画建築研究所(アルパック)：中川、長澤、斎藤(敬称略)		
傍聴の可否		可	傍聴者数	3 人
傍聴不可・一部不可の場合、その理由				
会議次第		1. 開会あいさつ 2. 委員長・副委員長の選出について 3. 議事 ・地球温暖化対策実行計画(区域施策編)(素案)について 資料① 4. その他 ・次回の精華町環境推進委員会について 資料①：地球温暖化対策実行計画(区域施策編)(素案)		

1. 開会あいさつ

事務局

定刻となりましたので開始させていただきます。

- ・推進委員会の委嘱について
- ・委員紹介

委員会の成立について報告する。精華町環境推進委員会規則第3条第2項の規定により、半数以上の委員の出席が必要となっている。本日の委員の出席者数は9名で、委員総数10名であるため、本会議は成立していることを報告する。

また、本委員会における傍聴者は3名である。

それでは、第32回精華町環境推進委員会の開催にあたり、最初に、健康福祉環境部部長の岩前から、ごあいさつ申し上げます。

岩前部長

お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

これまで4年間、コロナが続き、色々な面で制約を受けて生活をしてきたが、本町では、11月で集団接種が終了し、来年の3月までは町内の診療所にて個別接種を継続しているという状況である。今は、インフルエンザが急激に流行っている。みなさまも感染症対策に十分ご留意いただきたい。

先月、11月19日に、精華まつりを実施し、3万7千人と多くの方にご来場いただき、成功裏に終わることができた。環境の部門についても、精華町環境ネットワーク会議や精華町生ごみ減量・堆肥化推進協議会のみなさんには色々なブースを設けていただいて、啓発活動などにご協力いただき、ありがとうございました。いろいろな面で住民のみなさんにも環境の取組を周知できたと思っている。

また、11月23日には、毎年開催している環境のつどいを実施した。これは10年前から、小学生が夏休みに毎日、環境について考える日記をつける取組を続けてきている。今回、応募のあった方の中から14名の小学生に表彰を行った。今後も、内容を充実させて実施していきたい。

最近の動きとして、この委員会でも何度か報告を行っているが、今年の9月から、以前より問題になっていた資源ごみの持ち去りを禁止することを目的に条例を施行した。資源ごみの持ち去り者に対して罰則を設け、厳しく取り締まる方針で実施している。現時点では罰則を行った事例は発生していないが、持ち去りも抑えられている状態である。今後も引き続き、町でもパトロール等を実施し、条例に基づいて取り締まりや再発防止に努めたい。

現在の取組では、町内で建設土砂等を搬入されて、埋めたり、盛られ

たり、という状況がいくつかある。一定の面積以上だと京都府の条例が適用されるが、その面積以下では対象外になっている。その対象外の部分について、縛りをつけるため、条例を制定したいと現在整備を進めている。先ほどの資源ごみの持ち去りに関する条例と同様に罰則を設け、町内の良好な環境保全に努めていきたい。今後、具体的な内容が詰められた際には、本委員会においてもご報告させていただきたい。

本日は、本町の地球温暖化対策実行計画ということで、この間、策定に向けた準備を進め、本委員会においても趣旨等のご説明をしてきた。本町の環境基本計画に基づいた地球温暖化対策実行計画ということで、本日は特に計画の後半部分で、行政、事業者、住民がそれぞれどのような役割を持って取り組むのか、という内容の案を提示させていただくので、特にその点の内容について十分、委員のみなさまにご議論いただき、精華町として実のある計画にしていきたい。それぞれの主体がそれぞれの役割を持って、精華町における地球温暖化防止の対策、脱炭素の取組を推進して行きたい。短い時間ではあるがよろしく願いたい。

事務局

・資料確認

それでは、次第に沿って進めさせていただく。次第の「2. 委員長・副委員長の選出について」に移る。

2. 委員長・副委員長の選出について

事務局

委員長、副委員長の選出については、規則第2条第1項および第3項に規定されている。委員長は委員の互選から、また、副委員長は委員長からの指名と定められている。まず、議長の選出であるが、何かご意見等あるか。

畑中委員

事務局からの推薦でいかがか。

事務局

事務局としては、引き続き委員長には上甫木委員に願いたい。

委員全員

異議なし。

事務局

それでは、異議なしということで、上甫木委員に委員長をお願いすることに決定する。よろしく願いたい。

それでは、上甫木委員長より、あいさつを願いたい。

上甫木委員長

ご推薦いただき、大変恐縮している。非力ながらみなさんの協力のもとで勤めさせていただきたい。

先ほど、岩前部長のご挨拶の中で環境日記の話があったが、私も子ども達の日記を読ませていただいた。印象としては、子ども達がSDGsを勉強していて、幅広い視点で色々な取り組みをしている。その中で、親

が巻き込まれて一緒に動いたり、自分で地域のごみ拾いをしたり、企業の色々な活動などにも非常に興味を持っている。それが10年続いていることはとても大きな資産である。地球温暖化対策など環境問題は、まさにそのような事とリンクする。子ども達だけでなく、地域や企業などをしっかりと巻き込んで行ければと思う。環境のつどいなどでこのような取組をしっかり広報するような事を検討していただけると良い。よろしくお願ひしたい。

事務局 ありがとうございます。副委員長については、委員長からの指名となっている。委員長よろしくお願ひしたい。

上甫木委員長 副委員長については、引き続き精華町商工会の寺本委員にお願ひしたい。

事務局 ありがとうございます。それでは、寺本委員に副委員長をお願ひしたい。ここからは、議事進行を上甫木委員長にお願ひしたい。

2. 議事

①地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（素案）について

上甫木委員長 ただ今の説明について、ご意見・ご質問をお願ひしたい。

まず、私からお尋ねしたい。たくさん数字があつて対応関係が分からない。p.40に温室効果ガス排出量削減の目標値が書かれているが、この数字とp.39のシナリオ1～3で求められた数字の関係をどのように見れば良いのか。

事務局 p.40の数字は2030年の現状すう勢ケースでどれだけ温室効果ガスが排出される見込みかを記載している。

p.39はどれだけ削減できるのか、という観点から出した数値である。説明が不十分なので見直したい。

上甫木委員長 ここでの検討を踏まえて、p.40一番下右端の2030年の排出量というのが算定されているというわけではないのか。

事務局 p.39のものは、どれだけ取組によって削減できるのか、ということを書いている。その削減分を踏まえてp.40の現状すう勢から減らしたものが右端の目標の排出量という形になっている。

上甫木委員長 そうするとp.39のものは、排出量を減らす際に、個々の対策についてはこのくらいの効果が見込まれるということを示しているということか。

事務局 はい。加えて、どこまで取組むのかということで、シナリオケース1～3を示している。

信田委員 関連してお聞きしたい。

P. 40 の 2030 年度中期目標については 46%削減で、8.2 万 t となっているが、下のグラフでも 8.3 万 t になっている。P. 38 の上のグラフについても、8.3 万 t になっている。なので、8.2 万 t の数字が違うのではないか。

また、下のグラフの単位が、千 t-CO2/年となっているが、万 t-CO2 の間違いではないか。下の表では万 t-CO2 となっている。

事務局

ご指摘の通りである。

上甫木委員長

p. 31 に太陽光発電の詳細について可能性が書かれているが、(2) 土地系導入ポテンシャルの耕地、田・畑と書かれているが、精華町は耕作放棄地が点在していることもあり、田畑にどのような形で太陽光パネルが設置されるのか気になる。

事務局

p. 31 の (2) 土地系導入ポテンシャルの耕地で数値が上がっている所は、現在営農されている田畑である。ここに太陽光パネルを入れる場合は営農型の太陽光発電となる。ただ、精華町で導入する場合はなかなか難しいところもある。田に大規模に導入している事例はほとんど無い。畑や果樹園などでも大規模に導入することはすぐには難しいと思われ、大きくは取り扱っていない。

上甫木委員長

田畑全体の何割程度に太陽光発電を設置する試算になっているのか。

事務局

ここでは、ほぼ全面に設置する試算である。荒廃農地では、営農を考えずに敷地を見ているので効率が高くなっているが、耕地については営農しながら、前提なので、それほど高くはなっていない。

上甫木委員長

本当に可能性、ということで理解した。

畑中委員

5 点ほどある。

まず、概要版の時には、けいはんな学術研究都市のことも含めて精華町の特徴的なことが書かれていたが、それが全体に薄まっている。広域図はあるが、精華町の図が無いので、あっても良いのではないか。その中で、国レベルの研究施設など精華町の当たり前の話が抜けている。次に、次世代エネルギーシステム実証事業など、エネルギー関連の歴史があり、前回の概要版には書かれていたが抜けている。最終的には p. 33 の目標の全文などできっちりと書く必要がある。できれば、京都府下の中でリードする、くらいのことを書いていただければと思う。元々、住宅なども太陽光発電の導入率も高く、全体として施設も新しいので、他の町よりリードしている。そこを更に高みに行くというニュアンスのことを是非書いていただきたい。

2 点目は、概要版には書かれていたと思うが、経済界の動向の話が抜

けている。TCFD（企業による気候変動に対応した経営戦略の開示）や SBT（企業の脱炭素に向けた目標設定）などサプライチェーン排出量などのキーワードが割愛されているので入れるべきである。特に精華町の場合は、事業者が頑張って雇用も作っている。そこは今後、大きく影響がある所であるので、社会的動向などに書いた方がよい。

また、環境報告書にはトピックスで入れたが、p. 18 の産業の所にできれば地域経済循環分析を入れた方がよいのではないかと。それが、p. 28 の太陽光設備が町外の資本が多いが、これからは内部でやっぴこ、という話につながると思う。

あと、前回の資料には書かれていたが、目標設定の考え方で、フォアキャスティングとバックキャスティングの話を書く必要がある。精華町は今まで、環境日記も含めてフォアキャスティングでは積み上げ式では凄く取り組んで来ている。しかし COP28 でも議論されている通り危機的状況になって来っており、バックキャスティングでねばならない状況になっていることをもう少し住民に対して強調した方がよい。フォアキャスティングよりバックキャスティングを重視することを目標設定の所で強調した方がよい。

最後に、p. 44 で事業者の取組、の 2 つ目に「CO2 排出量の少ない燃料を選択します」と書かれているが、もう燃料の選択は無い。基本的には電気に変えていくこととなる。例えば、国は 200℃までの工業用のヒートポンプで熱関係に対応するなどを開発しており、火をたくという世界は無くなる。なので、表現の見直しをお願いしたい。また、その下の「設備機器の適切なメンテナンス」となっているがこれもメンテナンスではなくオペレーションである。エア漏れの徹底的なチェックや余熱などオペレーションという言葉は産業界では使うので、言葉の見直しを行った方がよい。あと、もう一つは、通勤対策について書いた方がよい。個人のマイカー通勤を通勤手当などでシフトしていく話が始まっている。

事務局

色々ありがとうございます。1 つ目の精華町の特徴についてはご指摘のとおりである。歴史等についても充実させるようにしたい。

太陽光発電の導入率について、全国的に見ても、家庭への太陽光の導入率は高いので、精華町の特徴として記載する。

経済界について、抜けているが、事業者さんへヒアリングしているが取引先から要請があるというところは一般的になっていない状況である。その点は、取引関係が密接な地域とは異なると感じているが、キーワードとして記載することはありだと思ふ。

地域経済循環分析等については、計画書には追記したい。また、内部での投資等についても、地域経済循環分析とあわせて方向性に反映していきたい。

また、フォアキャスト、バックキャストについて、P. 40 の削減目標の設定について一言記載しているが、計画全体として、こうやっていかないといけないと書きつつ、強く訴えるほどの書き方ではないので、今の計画案では落とした形になっている。

通勤対策については、運輸部門の P. 48 に、事業者の取組の箇所が一番下に従業員の移動について公共交通や自転車などを記載している。その点についても、昨今大きな課題として全国的にもあがっているところなので、町と相談して、目立つような記載を考えていきたい。

信田委員

大きく 2 つ指摘したい。

一つ目は p. 33 の計画の目標で、将来像を記載しているが、健康の視点を入れていただきたい。フレイル対策で、医療に頼らない自立した高齢者、歩行や自転車が増えるなどの文章を入れていただきたい。そのことによって医療機関に行く回数なども減る。

2 つ目は p. 41 の削減目標達成に向けた方向性の所に関連して、国の方針としても 2050 年の所で CO2 の吸収という対策が出てくる。植林によるカーボンニュートラルや CCUS の例えば水素細菌によって新たなものを作り出す、プラスチックや食料などを作り出す、人口光合成を行うなどにより CO2 を直接減らす対策ももう一つの柱としてあると思う。精華町は研究機関が多い地域なので、そのようなところで、再生可能エネルギーの利用技術や CCU の技術などを積極的に研究開発していただき、事業者にはそれを実現していただきたいと思う。その視点を p. 42 第 5 章の施策の柱をもう一つ増やしていただきたい。

事務局

一つ目の健康の観点に関しては、原案において健康についての記載が全くないわけではなく、p. 48 の施策の柱の 3 の前文で、車の利用を控えて、健康増進につながるという事を記載している。ただし、目標という形では記載していない。検討の余地はあると思う。

信田委員

精華町は、その対策を重点的に行っている町なので、その取組と連携する意味でも、ぜひ目標にしていきたい。

事務局

健康増進の取組として本町ではせいか 365 が定着している。いただいた意見の通り、健康の取組が環境負荷の配慮にもつながっていくと思う。キーワードを入れさせていただき、健康と環境ということで繋げていきたい。そのような形で修正したいと思う。

信田委員

ぜひ、p. 33 のところに記載をお願いしたい。

事務局

もう一つの CCS や CCU 等については、国等でそのような取組を進めているが、精華町の事業者ではそのような取組をしそうな環境ではないと感じている。

先ほど、畑中委員の意見の中でも燃料を選択する時代ではないという話があったが、将来的には電気を使っていく社会になってくるだろう。よって精華町で燃料を使って CO2 を直接排出するという方向性にはならないだろう。

また、研究開発機関はたくさんあるが、脱炭素そのものや関連する研究はされていない。将来的にそのような研究機関を誘致する、そのような研究を新たに立ち上げるという可能性はあると思うが、施策の柱の一つにできるほどのものか、というと少し難しいと感じている。

施策の柱 5 の脱炭素のチャレンジを進めるという中に、研究開発機関でそういった研究を促していくということなどは記載出来る可能性はある。事務局としては柱の一つにすることは難しいと思うが、他の委員の意見もお聞きしたい。

上甫木委員長
寺本副委員長

今の議論に関して、事業者の方々はどのような意見か。

現在、私が監査役をさせていただいている会社は、膜を使った事業を展開しており、環境に関する事業等をされている。現在、実証実験なども始められている。細かい話でいうと、A ライン、B ラインとよく言われるが、岩本委員がいらっしゃるところでは、ある企業の社長は精華町商工会の副会長のうちの一人であるが、自社の芝生をきれいに自らされる運動が広がって行って、道がいい景観に変わってきているなどの取組もされている。現状、ここまで来ていただいている事業者の方は、意識が高い。

そのような取組をさらに推進するという事で、柱のひとつに付け加えていただくことも良いかと思う。

岩本（泰）委員

B ラインの所（けいはんな学術研究都市の一番北側）、光台 1 号線に精華地区まちづくり協議会に参画している企業が多い。総じて環境に対しての意識は高いと自負している。

それが今度、CCU のレベルまで実際に投資をしてというのは、あまりイメージが湧きにくい。しかしながら 25 社の内のかなりの企業が 10kW の太陽光パネルを設置して発電している。

緑地の手入れは、経営陣自ら行っている。

また、EV 車、PHV 車についても、社用車については非常に意識をしている企業がある。自社においても電気自動車等を導入している。

なので、設備投資等及び汗代については講じていく気持ちはあるが、

ハイレベル所のCO2の回収まではちょっとイメージが湧きにくい。

上甫木委員長 柱を立てるといふより、チャレンジをしていくという課題やこれからの方向性を記載するということかと思う。

岩本（泰）委員 けいはんなまちづくり協議会に参画している25社、もう一つのけいはんな学術研究都市の企業団体であるSRGが20数社ある。これらの企業がどれくらいの太陽光発電の導入の設備量について把握されているのか。それがこの計画書の実績の数字に繋がって来ると思う。

事務局 分かるのは、FIT分のみである。自家消費などの形になるとどのぐらいの設備が導入されているのか分からない。

岩本（泰）委員 それと、結果の数値というのはどのようにリンクしているのか。

畑中委員 おそらく、自家消費をされている事業者は少ないので、FITで入っているという理解で良いと思う。

岩本（泰）委員 ここ最近では電気代が上がり、太陽光パネルのコストが安くなって来ているので、ここ2～3年で、投資回収の面からも導入される事業者が増えてきている。

畑中委員 信田委員の意見は大事な話である。CCSまでいくかは分からないが、脱炭素経営の中でももちろんリスクもある一方で、技術開発などのチャンスもある。優位を保っていく、あるいは新しい展開をしていく話はあるので、そのようなニュアンスでどこかに記載できると良い。CCSまでいくと難しいかも知れない。

信田委員 今ある研究所の実態は私も掴んだ上で言っていることではある。もう一つは、植林の話はあるのではないか。荒廃森林や荒廃農地がある中で、それをどのように植林をしながら脱炭素につなげていくのか、その視点を是非入れておいて欲しいと思う。

上甫木委員長 先ほどの説明では、自然環境はこのまま維持するくらいしか記載されていない。もっと吸収能力が高いものに育成、管理すると、そういうことかと思う。

信田委員 気になっているのは、近年、新築で建つ家にはほとんど庭木を植えない。そのような生活が普及をしているので、そのあたり、難しい話だが、住民の環境意識を育てていくのかは課題である。

例えば、精華町は車が多い。CO2の排出も運輸部門が非常に高い。家庭の自家用車が非常に多いことに起因すると思われる。一方で、大型の車両も増えている。そのあたりも意識の問題だと思う。

バス通勤やバス通学が増えない。それはバスの運賃が高く、送り迎えの方が安くつく。バス運賃を安くすれば通勤通学の利用者も増えると思われる。まちの施策として、どうするのか、これからの話だと思う

が、まち全体のCO2排出としては大きな要因だと思う。

畑中委員

p. 48の町の取組のところに、「公共交通や徒歩、自転車による快適な通勤が行える環境づくり」と記載されている。そこに、適応計画の議論にはなるが、木陰やクールスポットなどの話も入れてはどうかと思った。その中で、木という話もある。

上甫木委員長

クールスポットや荒廃植林の育成の話は、入れておくべきだと考える。バスの料金の話もつながらないかなと思う方もいるかもしれないが、仕組みとしてははすごく関連する。その点も触れておいてはどうか。

実際の取組については、計画の推進体制で提案されている精華町脱炭素脱炭素推進機構で考えていくことになるのかと思う。そのための方向性は提示しておく方が良い。

井澤委員

各家庭でどれくらいやったらどれくらい効果があるのか分からないが、ここに掲げられている住民の取組は、私たち団体でも直ぐに取り組めることが多い。前回も、仕組みの構築のお話をした。

最後に計画の推進に記載されているが、今すぐに取り組めることがあるのに、長い期間の中で色々な事を立ち上げて推進して行くということは、もっと早く取り組まなければいけないという意識がある。

特に私たちも高齢化しているので、今すぐに取り組めることは、計画本体の周知と併せて各種団体に伝えて行くことを出来るだけ早く行っていただきたい。

また、どのような形で取り組むのか年表がないので、目標達成に向けて各種団体にどのような形でおろしていくのか考えて行っていただかないと、既存の団体も2030年になると解散しているかも知れない。

もしくは私も団体の代表として委員会に参加しているので、そのような事を待たないで、自分の団体の中におろしていけば、そのような事で進むのかも知れないが、機構を立ち上げて行こうという計画の方針なのであれば、出来るだけ早くしていただきたい。

また、地域による違いはあると思うが、私たちの地域は下狛の古い地域なので新しく家を建てる機会は無く、単独の高齢者世帯が多い、太陽光発電をしようという気概はない、荒廃してく一方である。地域の課題としては、買い物難民や公共交通に乗れない人を支援するためにどのような住民組織を作り上げていくのかである。なので、そのような事を掲げても地域格差がある。そのためにどのような手立てを組んでいただけるのか、町に対して要望が出てくると思われる。

上甫木委員長

一つ目は、推進体制の所でタイムスケジュールや既存組織への情報の伝達及びそれを行動に移していく、それを推進体制で行うと記載さ

れているが、どれくらいの期間でどのような手順で実施していくのかを出来るだけここに書き込んで欲しいという意見だった。

また、もう一つも大切な意見であったが、家庭向けだけではなかなか町民の方につながってこない。単身高齢者世帯、子育て世帯など様々タイプの世帯属性がある。きめ細やかな、町民や世帯ケースに対する方向性を意識した記載が欲しいという意見かと思う。

井澤委員

精華町全体のことと、私たちが今現実に住んでいる地域と、私たちが現実に住んでいる地域の課題というのはものすごく多いと思う。

畑中委員

おそらく一般の家庭ベースでは精華町の場合 4 割程度が自動車であると思う。残り 6 割が空調系・給湯系。自動車はやはり大きいと思う。自動車はこれから劇的に減る可能性がある。向こう 5 年で世の中が大きく変わっていくと思う。極端な話、産業部門はほっといても、それぞれ取り組まれると思う。業務部門の大口はやらなくてはいけないので減っていく。精華町で一番残るのは、住宅と運輸部門かと思う。重点的には書いていただいているとは思いますが、精華町の場合、運輸部門が大きいと思う。家庭生活ベースでも車で大きく排出しているケースが多いだろう。例えば、住民向けにコラムでモデルケースをつくって、記載してはどうか。

上甫木委員長

具体的に書いていただくと分かりやすいと思う。

渡辺委員

精華町といっても、新しいところと旧集落で住民の意識も異なり、考え方が異なるだろう。

住民の意識として削減しなければならないという意識は高いが、自分たちが何をすれば良いのか、具体的に何をする必要はあるのか。広報でたまに記載されているが、読んでない方も多し。そのあたりを町民にどう伝えていけるのか。分かりやすさが必要である。小学生が環境日記を 10 年前から取り組んでいるということで驚いた。子ども達がそれに取り組んでいると、大人になって取り組んでもらえるのかということ、なかなかそうもいかない所もあるので住民の意識の改革が必要である。

事業所は一生懸命、取り組もうとしている。その点は良いと思う。一般の家庭で何が出来るのかということをもっと具体的に町の広報誌などで啓発すれば良いと思う。具体案を書いていただけると、住民も分かりやすいと思う。

上甫木委員長

様々な町民の属性に対応して書いていただけるとありがたい。

岩本（登）委員

太陽光発電の導入ポテンシャルを見ると、戸建とその他の建物で 90% を占めている。一般の住民からすると、企業は省エネ対策に対応されると期待されるが、住民の意識が、小学生が 10 年前から環境日記に取り

組んでいる。2050年に向け、現状よりも現在の子ども達を育てることが一番大切である。防災ということも考えれば、次世代が勉強し生活環境を変える方向で考える必要があるのではないかな。

現状では使い捨てが非常に多い。安くて1年経過すると捨ててしまう、間接的にはエネルギーの利用にもつながる。多少高くても長持ちするものを買う。近年の意識を変えるようなきっかけを発信できれば、2050年には変わっていくのではないかな。

上甫木委員長
寺本副委員長

ありがとうございます。他いかがかな。

p. 33に大きな目標がある。それを受けての施策が第5章にあり、それぞれの主体の取組が記載されている。さらに、p. 54に計画の推進について記載されている。実際の行動と言う意味では第5章の所がポイントになっているので、この10数頁の部分を町民に配って、このようなことを決めましたので、やっていきましょうと、目につくように共有してはどうか。

事務局

概要版を作成し、全戸に配布予定である

上甫木委員長
寺本副委員長

その際、特に行動に重点を置いていただいてはどうか。

その通り、全体を集約した概要版だとあまり意味がないので、こうやって取り組んで行きましょう、という形の概要版であることが望ましい。そうすると、家庭での取組や事業者の取組の努力がご理解いただけ、お互いの理解も進むのではないかな。困った時には第6章の協議会に連絡するという形にすればとても良い冊子ができるのではないかな。

上甫木委員長

第6章の計画の推進に関しては、先ほど井澤委員から意見もいただいたが、他にどうか。

畑中委員

今の子ども達はよく勉強している。アンダー30くらいまでは総合学習等で知識として身につけているケースが多い。その世代の上の30代から70歳以下くらいの世代の意識が薄く知識も乏しい。70代以上になると昔の暮らし方を引き継いでいる。

進行管理の話になるが、子ども達から見て、大人はちゃんとやっているのか、というアンケートを実施してはどうか。子ども達からすると自分たちの未来を大人は残そうとしてくれるのか、直接意見をもらおうと意識の低い大人に対して説得力を増す。精華町は環境学習に良く取り組んでおられるので、どこかのタイミングで実施すると良いのではないかな。その結果を広報で知らせると、大人達も考えるようになるのではないかな。

上甫木委員長

環境日記に、既にそのようなことが記載されている。「ルートを決めて毎週2回、ごみ拾いをしました」と、「いつも決まったところにたば

この吸い殻があります。なぜ捨てるのだろう」と疑問を持っている。

太陽光パネルのことも良く書かれていて、ちゃんと子ども達の目に映っている。壁面緑化などのことも書かれている。がんばっている子ども達に引きずられて、大人達の再教育が必要かと感じる。

環境日記から拾ってもよいし、アンケートをとって、子どもに教えてもらう、というそのくらいの気持ちで取り組んでも面白いと思う。

畑中委員
信田委員

2050年 は子ども達にとっては深刻な問題である。

岩本委員が言われたライフスタイルについて。最近気になっているのは、精華町でも増えている100円ショップである。ペットボトル飲料も増えている。全て使い捨てである。そのあたりも意識した方がよい。

p.43の目標達成のための各主体の役割で、町の役割の記載で「本町の事務事業において」と限定されているが、「事業」としていただきたい。特に、町自身が計画を立てて実施する事業部の事業は全体を規定するような話になるので、事業としても環境の視点を入れないと成り立たないはずの話である。少なくともISO14001クラスの取組にしたいと思う。

上甫木委員長

色々ご意見いただいた。それを踏まえて、今後のスケジュールはどうなるのか。

事務局

ご意見を反映し、年末あたりから正月にかけてパブリックコメントを実施する。その後、議会に報告し、最終は3月27日に開催の第4回委員会で決定いただく予定である。本日はたくさんご意見いただいたので、できれば上甫木委員長と相談しとりまとめを行い、パブリックコメントの手続きに入っていきたい。このような流れで進めていきたい。

上甫木委員長

パブリックコメントについては、このようなスケジュールでご了解いただきたい。また、本日言い切れなかった意見は、随時、事務局までご連絡いただければと思う。

3. その他

岩本（泰）委員
事務局

データセンターの騒音問題について情報提供。

次回環境推進委員会について、3月27日予定。

4. 閉会